



アーカイブ 通信 No.33

No.33

2025.3.1

◆編集・発行：

ネットワーク・市民アーカイブ

事務局

〒189-0012 東京都東村山市萩山町 2-6-10-1F

tel・fax：042-396-2430

E-mail：info@archive-tama.sakura.ne.jp

◆正会員 1口 6,000 円、賛助会員 1口 3,000 円 / 年

ゆうちょ銀行 振替口座 00120-9-729226

口座名：市民アーカイブ ※団体会員 2口～

◆日雇労働者の町として

◆日雇労働者の町として
寿町は横浜市中区、JR石川町駅から中華街とは反対側に歩いて3分くらいの所にあります。寿町、松影町、扇町、長者町などの一帯に簡易宿泊所（以下、簡宿）が林立しており、それを「寿町」「ことぶき」と呼んでいます。「安宿」が集中する簡宿街としての寿町の始まりは1956年10月ですので、約70年の歴史があります。
戦前の寿町は簡宿が1軒もなく、2階建て木造住宅（多くは店舗兼）が密集し、小商店が建ち並び、港を支える職業・職種の人が多く住んでいた下町でした。戦前の安宿は「木賃宿」でしたが、寿町に隣接する中村町や三吉町周辺に多くありました。1859年の横浜開港以来、波止場、大さん橋、新港ふ頭、高島ふ頭などが設置され、岸壁から離れた大型船まではしげを使い荷物を揚げ（輸出）、または下ろす（輸入）、肉体労働者が必要とされました。

寿町の変遷

—歴史の消去・空白を作らないために—

寿町と資料室



松本一郎
(ことぶき共同診療所寿町関係資料室)

「横浜に行けば仕事がある。何とか食えることができる」と見込んで多くの日雇労働者が中村川沿いに集住したり、分散して人夫部屋に囲われて暮らしていました。貨物船はずつと来るわけではなく、しばらく来ない時もあります。このため港湾労働市場には独特の「波動性」が生まれます。港湾の会社にとっては都合良く雇用しては解雇する日雇労働者がプールされなければいけません。歴史的に見れば、この地域一帯は、開港以来、港関係の商売人の町であるとともに、他から移住してきた労働者の町でもありました。つまり、このような地域性は横浜の内陸には生まれず、臨海地区で条件が揃ったところで歴史的・社会的な役割が与えられたと言えるでしょう。

◆簡宿の町並みから

1950年代後半の寿町は、米軍によって接収解除されて簡宿が建ち始め、職安が桜木町駅前から移転し、変貌する画



横浜市寿生活館

期となりました。60年代には簡宿は80軒台に増え、簡宿街としての町並みを形成します。当時は家族世帯も多く、子どもも1000人以上が暮らしていました。65年に社会福祉の拠点として横浜市寿生活館が設置されます。その後、行政は74年に町の中心部、職安のあった土地に寿町総合労働福祉会館を設置し、上層階に家族世帯のための市営住宅を作り、簡宿から移ってもらう。加えて、家族世帯そのものが寿町で暮らし始めることが減り、次第

開館 11 周年記念集会

アーカイブズと戦争 ～記録と資料が語る平和への道～

2025年6月8日(日)午後2時～

講師：吉田 裕 さん(東京大空襲・戦災資料センター館長、歴史学者)



2002年開館の東京大空襲・戦災資料センターは、国立民営の施設として、散逸しかねない戦時資料や空襲にまつわる人々の記憶を集め、記録し続けているとともに、さまざまな講座や体験学習の場となっています。「想像力を鍛える場」(吉田さん)として、資料館や市民活動資料はどのような可能性をもっているのか、一緒に考えませんか。

・会場：たましん RISURU ホール 5F 第1会議室
・500 円(会員無料)、事前申込優先、定員 75 人

に单身男性世帯が多数になります。一方、この頃から港湾日雇労働が次第に無くなり、寿町には道路、ビル、上下水道、ダムなどの建設・解体の仕事に従事する土木建築関係の日雇労働者が多くなってきました。また、木造の簡宿はほぼ無くなり、耐火鉄筋コンクリート造りがほとんどになります。ところが、90年代初頭のバブル経済崩壊以降、日雇の仕事はばったりと無くなってしまいい、日雇労働者や野宿者は日々区役所に生活相談に向かいました。もともと、寿町に生活保護世帯は多かったのですが、この時期に急増しました。次第に元日雇労働者ではなく、他の地域で困窮して寿町で暮らし始める人が増えていきました。

◆困窮者を受入れ命を守る拠点
この状況に合わせて、90年

代以降は10階建てくらいのマンションのような簡宿建築ラッシュが起き、かつての雰囲気とは変わっていきます。近年では生活保護率が95%前後、高齢化率は50%台後半で、日常的に医療福祉的な支援が必要な人が多く暮らしています。世帯で見ると中高年以上の単身男性が圧倒的に多いのですが、単身女性も約300人が暮らしています。この10年で総人口も減り続けており、近年、建て替え時に簡宿からワンルームマンションへ、あるいは日本語学校に通学する留学生の寮へ業態変更する例（2軒）もあります。

これまで、寿町に住を求めた人々が暮らし、仕事を探し、時に生活に困り、支援者や行政機関が対応し、ケアを担う事業者などが集まり、確かに人が歴史を作ってきました。医療・介護・生活相談・教育・労働相談などで、何十年もこの町の人々とともに寄り添って活動してきた人がいます。町を通り過ぎるだけだとあまり分からないのですが、国と自治体による生活保護制度とビジネスとして営業している簡宿がセットとなって生命を守る仕組みが根付き、寿町が市全体の対策拠点となっています。よく見ると、実は社会全体で生み出された困窮者を受け入れ、暮らしを支えている町となっていることが分かります。

◆ 寿町関係資料室の意味

◆ 田中俊夫さんからのバトン

1996年4月、ことぶき共同診療所が仲間の力を合わせて開設され、その中に2002年、「寿町関係資料室」ができました。資料室で取り組む内容は、基本的に当時の院長であった故田中俊夫さんのアイデアや方針をもとに行いました。学部・大学院時代に文化人類学を専攻した田中さんは、65年に寿生活館相談員となってから寿町の地域活動や労働運動にずっと関わり、必要性から53歳で医師となり、自身が入院する前まで診療していた人でした。

資料室は最初本棚1つだけだったのですが、その後鍼灸院の隣にスペースを設け、町の歴史や現状を調べ、伝えるための冊子『寿町ドヤ街』を第8号まで発行しています。この冊子は寿町の現状報告や考察に加え、過去に発行された重要な文章を再掲するアーカイブ活動でもあります。他にも、簡宿街の歴史の変遷を追って『地図集』を作ったり、簡宿設備調査をしてきました。田中さんは診療の際も、寿とは何かを考える際も、寿町で暮らす人々の生活の実態と歴史的背景を考え続け、本質的なものを常に探っていました。私は田中さんからバトンを渡され、引き継いだと思っています。



寿町関係資料室

◆ 地域にとって必要な資料
資料室では、絶版本も含め寿町の市販書籍はほぼ揃え、東京の山谷、大阪の釜ヶ崎、名古屋の笹島などの簡宿街、野宿者関係の本を所蔵しており、閲覧、貸出（貴重本を除く）を行っています。私は現在、金曜日資料室にあり、資料などの説明や町案内をしています。寿町関係では、かつてこの町で活動された方々から、流通しないようなビラ、チラシ、報告書の寄贈を受け、保管しています。たとえば、69年に寿町に自治会ができ、町の中心にある職安広場（当時）で発会式が行われるのですが、その時の横断幕も寄贈を受けて保管しています。また、第一次オイルショック直後の不況で日雇労働者が困窮し、寿生活館に労働者組合や共同保育が立てこもって生命防衛のための抵抗の取り組みをし

市民アーカイブ多摩の四季⑬

春 ハナミズキ

花が綺麗に咲き揃う見事さに見惚れつつ、いつの間にか同名の歌を口ずさんでいます。人の愛は百年続かないけどね...と思いつつ。

庭木、街路樹として日本各地で栽培されているハナミズキは、北アメリカの原産。1912（明治45）年に当時の尾崎行雄東京市長が米国ワシントン州にサクラの苗木3千本を寄贈した返礼として、1915（大正4）年に米国から60本が贈られてきたことで知られています。その原木はほとんど残っていませんが、花が美しく栽培しやすいことから全国に広まり親しまれています。

ミズキ科の落葉高木で、枝先に小さな花が集まり、そのまわりを、花びらのように見える白



ハナミズキ(左)とヤマボウシ(右)。果実は秋に熟します。

すが、その時の飛鳥田一雄名の「退去通告」も保管しています。

横浜市立図書館、神奈川県立公文書館、横浜市史資料室、横浜開港資料館、横浜都市発展記念館、市内の大学図書館などでも系統的に寿町関係資料を集め、かなりの資料を所蔵しているのではないかと思うかもしれません。私が、決してそうではありません。とはいえ、こういった機関の歴史、設置目的、資料収集範囲

は、それぞれに独自性を持っていますので仕方ありません。私たちは「○○がやらないからやろう」ではなく、「○○に頼まれたから受託して行う」でもなく、自主的・自発的に「寿町関係に絞って収集などを行うこと」がこの町にとって必要」と思っています。何もないところから歩いてきたというのがしつくりきます。共同診療所設立趣意書には「どこからでも独立した自前の診療所

を作っていく」と、設立に関わった人の意気込みと診療所の性格が一言で書かれています。診療方針として「時間的・場所的・応対的に患者さんが来やすい診療所にしていくこと。いわゆる敷居が低いこと」を掲げています。私も共同診療所設立準備会から関わっていますが、寿町の歴史的・社会的な意味や重み、「家族の解体・労働災害・高齢化・失業・アルコール依存」といった地域的特性を理解した上で、

◆ 資料で未来とつながる
私の寿町との関わりは寿医療班という団体の医療生活相談からです。病気が怪我で生死に関わる状態であるにも関わらず、あるいは200近い高血圧にも関わらず、医療保険がなく病院にかかることができないなど、困難を抱えた多くの人に対

面しました。労働が、病気が住居喪失、極限的困窮、社会的孤立につながっていることを見てきました。これは寿町だけではなく、色々な地域で起きていることではないでしょうか。寿町で起こってきたことは社会全体の先端であり、後から社会全体でも起きることなのかもしれません。日雇労働などの非正規労働、単身世帯化、高齢化、医療・住宅困窮などです。資料室もこの延長線上で作られたということです。そ



シリーズ「現場」を訪ねる⑩報告

横浜・寿町関係資料室

シリーズ「現場」を訪ねる第11回は、2024年12月8日、「場所のもつ力」から学ぶ・労働者の街を支える実践と記録・横浜・寿町関係資料室を訪ねて」というタイトルで開催した。

昼過ぎに石川町駅に集った参加者は、松本一郎さんの案内で寿町と周辺についての解説を聞きながら、歩いて10分ほどの「寿生活館」へ向かった。まず同館3階の会議室で松本さんから1945年〜2015年までの詳細な年表資料を元に、「寿町」がどのように形成されていったのか話を伺う。また、90年代以降のデータを示された。宿泊所は2010年頃をピークに徐々に減少し、外国人の人口は90年代初めをピークに急減。一方、生活保護世帯数は増加している。かつては「労働者の町」であった寿町も現在は「社会の中で困窮した人を受け止める町」となっているとまとめられた。

お話の後は、寿町関係資料室の見学と寿町を散策するグルー



プの2班に分かれた。寿町関係資料室は、共同診療所2階にあり、扉を隔ててすぐ隣は診療所のデイケア室という手狭な1室である。当初は本棚1つだけだったというが、だんだん資料が多くなっていったという。

書棚には寿町に関する資料が並び、寿町の情報、関係する方の著書、同じように野宿者支援をする団体の資料、地図など、「寿町」をより深く知ることができる資料ばかりである。個人が集めたり、寄贈されたり、送付されてきたりといった

うこうしているうちに、20年以上が経ちました。最後にこれまでを振り返り、一言述べたいと思います。資料というものは、何もしないと時間が経つにつれてこの世から消えていきます。その結果、歴史の消去や空白が生まれます。残しやすいものや何らかの企業的利益に結びつくものだけが残っていきます。だからこそ未来の人に歴史を渡すために、私はこれからも資料の価値や歴史を大切に

※1 寿町の歴史と活動の取り組みについては、寿町関係資料室『寿町ドヤ街』や『歴史研究会編（2022）「横浜・寿町」地域活動の社会史』（上）（下）（社会評論社）参照。

※2 ことぶき共同診療所『田中俊夫追悼文集』（2017）参照。

市民アーカイブ多摩が所蔵する、会報・通信(ミニコミ)を、発行者の方に紹介していただきます。

区画・再開発通信

「区画って何のこと？」と、いつも説明するのに窮する名前のニューズレターを月刊で出し続けてきました。発行は、NPO法人区画整理・再開発対策全国連絡会議という、大きな看板ですが、小さな会議体です。ただ歴史は長く、グループの立ち上げが1968年、ニューズレターの創刊が70年です。会員はおよそ500人で、各地の住民運動の担い手、自治体議員、弁護士、専門家、研究者などで構成しています。区画・再開発通信はこの会議の会報ということになります。「区画整理」は、土地区画整理事業というのが正式な名称です。通信名は、区画整理の区画をとったものです。この事業は、道路づくり、都市づくりの方法で、全国いたるところで進められてきました。



・1970年創刊、年12回発行、600部、A4判、12頁、会員、読者へ発送
・年会費：8400円
・tel：03-5261-4031
・E-mail：info@kukaku.org
・当館所蔵：457号(2008年)～▽661号(2025年1月)＝伝統的建物保存と住民活動、阪神淡路大震災から30年、枚方、松戸、鎌倉からの報告他

古くは関東大震災などに始まり、30年前の阪神淡路大震災、火災、日本大震災などでは、復興事業として多くの区画整理が進められました。その後、再開発正式名は市街地再開発事業も行われるようになり、「再開発」の名前も加えられました。むしろ今や再開発のほうが、神宮外苑再開発などで有名になりました。

区画整理も再開発も、人びとの土地・建物についての権利を動かす、街を大きく変更する都市計画の手法です。区画整理は権利を平面的に動かし、道路をつくる事業。再開発はタテに立体的に権利を動かして、ビルをつくる事業。いずれもそれまで住んでいた住民やお店の仕事に甚大な影響を与え、都市環境の大きな変容、市民も大きな影響をこうむります。

そこで住民運動の連絡組織をつくらうということが集まったのが57年前で、その場でこの組織が立ち上げられました。さまざま顔ぶれの住民運動の情報交換や対策、まちづくり研究の共同の場として活動をしてきました。区画整理や再開発は、かつては自治体が積極的にどんどん行って

くらしを彩る

1971年に始まった「国分寺市民のための図書館づくりの会」の会報です。当時は国分寺に図書館は無く、「社会教育を考える」市民の集い」をきっかけに文庫や公民館活動をする人が集い、学習会や要望を始めました。会の声も届き、73年に初めての恋ヶ窪図書館が新築開館。同時に公民館の別棟が本多図書館になりました。司書資格を持つ職員も採用され、大変なにかわいで、文庫は団体貸出を受けられ、講演会の講師料援助もありました。市は中学校区ごとの地域館配置を表明し、75年に光図書館、78年にもとまち図書館が開館。随時、職員や

いました。これらの事業は「公共の福祉」の名のもとに強制力をともなうものです。しかし今や、こうしたしくみを企業、大手不動産「デベロッパー」などが「都市再生」と称して事業用地確保に利用。あちこちにタワーマンションなどを建てています。自治体は民間企業にこれらの事業を委ね、公金を無原則に補助する事例が後を絶ちません。

住民の住む権利、生活する権利をどう守るか、都市の環境、自治体の財政をどう守るかという点で、ますますこうした情報交換の場が貴重なものとなっていると思っています。(遠藤哲人)



・1983年創刊、年3～4回発行、320部、B5判、4～8頁、無料(年会費なし)
・tel:042-326-1253(須藤)
・当館所蔵：163(2020年)～▽175号(2024年12月)＝国分寺市新市庁舎内覧会報告、読書のバリアフリーって何?、便利だった駅前分館、多摩市立図書館見学記、はらっぱ文庫講演会報告、「私の2冊」他

館長たちと話し合いを行ない、意見や要望を伝えました。現在1775号を越える会報は、83年5月に会の名前どおりのタイトルで創刊。最初は手書き謄写版印刷でした。様々な人の字で書かれ、講演会や学習会開催時は長い記録も載せ、頁数も増減。その頃から必ず掲載してきたのは「本の紹介」や「私の一冊」です。いろいろな人が紹介する本は、いつも本(絵本)への夢広がる窓になってきました。

一時は同様な活動が各館ごとに生まれることを願って中断。ところが2000年代に入り、指定管理者制度を導入する議論が始まり、危機感を抱き始めました。直営継続のために図書館協議会の設置を要望しようかと会を再開。図書館運営協議会が05年8月に設置され、市民公募枠に会員や文庫の仲間と相談し、応募しました。

10年に「暮らしを豊かに彩る魅力ある図書館を目指してほしい」という願いで現在のタイトルに変更。直営の要望後は、①学校司書を全小中学校に配置、②図書館がない四中地区に設置、③中央図書館

館の建設をなどの要望や陳情を教育委員会や議会に行いました。こうして半世紀、時には大勢が関わってきました。協議会発足後は委員繋がりや文庫以外にも拡がり、市内では知られる会だと思えます。現在、活動をするのは主に文庫関係の4人だけですが、毎月定例会を持ち、3、4か月ごとに会報を出しています。

最近の主張は、①図書館のない四中地区に建つ市役所新庁舎に資料の受取窓口や端末・担当者の配置、②図書費予算の増額(特に絵本)、③現庁舎跡地に移転予定の恋ヶ窪図書館の充実を。

図書館について学び、行政に様々な要望を行ってきました。願いはなかなか届かず、有資格正職員は減り、悔しい思いを繰り返しつつ、図書館をいつも見ているという姿勢を堅持し、充実して利用しやすいものにならうと願っています。要望事項だけでなく、文庫活動や講演会の紹介・感想なども載せ、市長、教育長や議員に届け、図書館や公民館などに置き、多くの人に読んでもらえるようにしています。(須藤初枝)

市民アーカイブ多摩の資料棚から ⑱

〈消費者問題〉

当館の資料棚「80消費者問題」には、31ファイルのミニコミを所蔵。その中から、ある程度まとまった号数のあるものと特徴的なものを紹介する。なお号数の後の〈括弧内〉は発行年。

【多摩地域の生協生活クラブ】 東京都内には、「23区南」「東京都」「多摩きた」「多摩南」の4つのブロック単協と全体にまたがる「生活クラブ・東京」の5つの生活クラブがある。

『ジョイエス』は「生活クラブ・東京」が発行する月刊誌。各ブロック単協の活動紹介や「東京」が主・共催するイベントの案内など掲載。02～24年所蔵。「多摩きた生活クラブ生協」発行は『多摩きた通信 果夢★COME』『たまたま箱』がある。ともに月刊。前者は、宅配が困難な人のための展示販売会場「デポ」のイベントやキャンペーンの予定などを掲載。所蔵は21～24年。後者には、生活クラブが運営する保育園や設立した牛乳工場の紹介、提供する野菜や調味料を使ったレシピ、組合員がつくったデイサービスの訪問記などが載る。1号〈04〉(239号〈24〉)を所蔵。

『くたちち新聞みくり』は国立

生活クラブ運動グループ「くたちち地域協議会」の機関紙。月2回発行。生産者交流会のお知らせ、ごみの分別や回収されたごみのゆくえについての学習会、有機フッ素(PFAS)汚染を明らかにする会の緊急呼びかけ、湧き水の水質調査など、地域に根ざした話題が並ぶ。所蔵は17号〈03〉～391号〈24〉。

「パルシステム東京」は食・環境・人を大切にしたい社会づくりを目指し、宅配事業を展開。事業から派生する市民活動を『パルシステム東京コミュニティ・ワーク連絡会だより』に掲載。会員情報のほか、毎月「イベント&講座カレンダー」が付される。所蔵は19号〈03〉～44号〈10〉。パルシステム東京のうち、たま東エリアにある12市を対象に発行しているのが『たま東エリアニュース』。市ごと12の委員会や「食から考える健康生活委員会」など、目的別の委員会の情報が載る。23年10月号以降所蔵。

【食と暮らし】 1985年に日本初となる安全性を重視したオーガニック食材の宅配サービスを開始した「大地を守る会」。その『NEWS 大地を守る会』は写真をふんだんに使ったA3サイズ4頁の月刊通信。干物、梅干し、しじみ等、同会が宅配に提供する商品が製造過程と共に紹介される。所蔵は370号〈18〉～448号〈24〉。

『お米の勉強会会報』は兵庫県で発行される20頁前後のミニコミ。「田圃見学」のようなツアー企画や「除草剤を使わない稲作り」「ブランド米のルーツ」「赤米の話」などコマ作りにかかわる報告が満載。所蔵は13年～20年。

『食品と暮らしの安全』

「食品と暮らしの安全」は「食品と暮らしの安全基金(日本子孫基金)」が発行する月刊誌。内容は「ミネラル実測データ・500円ランチ」「危険な上に効果がない抗菌剤」「悪魔でも考えない」「10万年(高レベル放射性廃棄物の保管期間)」など。85号〈96〉～331号〈16〉所蔵。

『消費生活全般』は「生活クラブ連合会」が発行する48頁の月刊誌。生協の機関紙に止まらず、意識ある「生活者のための新聞」を目指す。「誰がケアするのか・ケア労働を尊重する社会に」「食べ続けたい、魚・水産資源はどう守るのか」などの特集記事が紙面

を飾る。所蔵は393号〈02〉～665号〈24〉。

『いのちの講座』

『ビジョン21』は食・農・環境問題を扱う情報発信センターである。政治の不作為や情報の隠ぺいなどに切り込み、海外の情報や専門家の指摘を紹介しながら警鐘を鳴らす。所蔵は111号〈18〉～144号〈24〉。

「多摩のくらしを考えるコンシューマーズ・ネットワーク」は東京多摩地域で活動する20余りの消費者団体・生協・個人のネットワーク組織。機関紙『コンシューマーズ・ネットワーク

多摩』には、各団体の活動報告のほか、講演会、体験ツアー、団体間の交流会などの報告が載る。所蔵は45号〈03〉～78号〈16〉。

『北海道・九州から』

『おむすび』は「みみずく舎」を運営するミリケン恵子によって発行され、「持続可能な暮らしを模索するミニコミ紙」である。郵送会員外は北海道内の赤井川・余市・小樽にある20ほどの旅館・

商店で入手できる。論じるテーマは食・医療・環境・名画・絵本など多岐にわたる。所蔵は45号〈03〉～64号〈18〉。

『北九州市消団連ニュース』

発行するのは「北九州市消費者団体連絡会」。同会は地域の生協や労組など北九州市内の9の団体が集まった市民連絡会組織である。ニュースには北九州消費者大会や総会の様子に加え、ゲノム編集食品学習会、環境学習会、消費者をターゲットにしたフィッシング詐欺の実例などが載る。所蔵は144号〈08〉～319号〈24〉。

自治体の消費生活センターなどが発行するミニコミのタイトルを紹介。いずれも、地域に根ざした身近な消費者トラブルの具体例や注意点が掲載され、トラブル防止に一役買っている。

『東京くらしねっと』(「かしこい消費者」改題) (東京都消費生活総合センター) 〈02～24〉、『TAMA 図書資料室だより』(東京都多摩消費生活センター) 〈17～24〉、『府中市消費生活だより』(府中市生活環境部産業振興課消費生活センター) 〈09

24〉、『消費生活センターだより』(町田市消費生活センター運営協議会広報部) 〈02～24〉、『ちえのわ』(清瀬市消費生活センター) 〈23～24〉。

(吉田明) 資料整理ボランティア

第3回 7月27日
戦争体験を今に伝える
『川田文子さんのこと』を作って
山澤遙乃・山澤綾乃・
高野慎太郎(自由学園)



◆探求する意志を育む

川田文子さんは、第二次世界大戦の際に自由学園の生徒(1938〜44年在学)で、44年12月3日に動員先の中島飛行機武蔵製作所にて空襲にあい、19歳で亡くなりました。当時の川田さんと同年代の山澤遙乃さん、綾乃さん姉妹が調べ、漫画やポスター・資料としてまとめたのが表題の冊子『川田文子さんのこと』です。

◆川田文子さんと出会う

高校3年生だった山澤姉妹が表題冊子の制作にあたったのが「総合的な探求の時間」という授業です。評価や成績を気にしないで、自分の考えたいもの、気にな

◆御門訴事件と出会う

第4回 9月28日
草川幸子(自治体図書館非常勤職員、
『御門訴事件を伝える活動の記録』編集者)



◆御門訴事件とは、
明治初頭、武蔵野新田の農民達が重税免除を県に集団で訴え、弾圧された事件である。維新後、江戸時代から続く農民への優遇政策が廃止され、代わりに「社会政策」という飢饉対策に名を借りた重税が全ての農民に課せられたことが事件の背景にある。農民達の重税免除の嘆願は、品川県知事に拒否され、度重なる県の不誠実な対応が要因となり、12力村500余人の憤怒した農民達は、日本橋の県庁の門前で重税免除を訴えるという門訴を行った。政府は不穏な噂も飛び交う中、軍隊も出動さ

◆近くにあった名主の墓
私が御門訴事件を知ったきっかけは、自宅の近くで名主の墓の説明板を見つけたことだった。事件の指導者でもあった名主の墓は、牢死を憚り妻の死後にやっと建てられたこと、御門訴事件が自由民権運動につながる事件でもあったという文言に

◆当事者に伝わっていない研究
現在、作成した冊子を御門訴関係者の子孫の方々に手渡し活動を行っている。理由は、御門訴の歴史をまずは当事者の中で伝えていっていただきたいという思いに他ならない。冊子を子孫の方に手渡すと「他の地域でも大変なことが起こっていたなんて全く知らなかった。自分達だけが大変だった」と思っている

◆歴史研究は何のためか
今回の緑蔭トークでは、門訴の場面や村役人を罪人と名指しする高札も朗読し、県知事古賀定雄、史料『むさ志野の涙』、事件の顕彰碑を呼びかけた自由民権家中島信行についても話させていきたい。全体としてたくさん盛り込み過ぎて焦点がぼけてしまったことは反省点で、最後に活かしたい。

市民アーカイブ多摩 春まつり
2025年3月30日(日曜日)
①13:00~14:45(出入り自由)
②15:00~16:00(集合14:55)
会場:市民アーカイブ多摩、グリーンサンクチュアリ悠ログハウス・緑地
内容:①市民アーカイブ多摩見学・グリーンサンクチュアリ悠緑地散策、ミニコミ紹介(13:30~) / ②NPO法人格設立総会に向けて設立趣意書・定款案検討会、夢を描こう!

リレーエッセイ

◆市民アーカイブ多摩のひと⑨

図書館女性史を求めて

宮崎真紀子(資料整理ボランティア)

職業人生のほとんどを大学図書館司書として過ごしてきた。専門的な資料を自由に利用できるという特権(?)を活かして、自分の研究を地道にやることで調べ物をする楽しさを味わいましたし、そのことが利用者へのサービスにも役立つこと

を日々実感してきました。研究そのものは、テーマがマイナーすぎて資料探しに苦労の連続でしたが、「お宝」を見つけた時のワクワク感はまだありません。

書館史の登場人物は男性ばかりが多いというのに。昔だって女性がいっぱいいたはず! そこから興味はいろいろな方向へと伸びていきました。女性も学べた図書館員教習所、婦人閲覧室、なんと大正期にアメリカの図書館学校に留学した女性もいました。なかなかまとまった文献がないので、新聞記事をひたすら眺め、国会図書館のマイクロフィルムで頭痛になり、晴天の日に窓のない母校の書庫にこもり……。

アメリカに留学した人の足跡を追っている時、現地の学校関係の資料などが簡単に出てくることに感動しました。日本で某大学に同様の問い合わせをした時には資料はないとあっさり断られたのに、さすがアメリカ力は文書をきちんと保存している!

も現在、ボランティアでお手伝いさせていただいていることにつながっています。(みやざき・まきこ 会員・資料整理ボランティア)



第1期 緑蔭トークを開催します

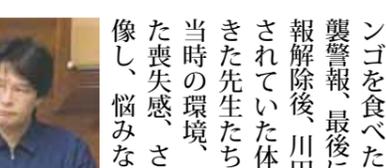
◆第1回 5月10日(土)
市民運動に動画を活かす
―映像記録の意義と活用事例
早川由美子さん
(ドキュメンタリー映画監督)



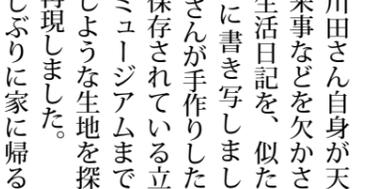
◆第3回 7月26日(土)
コミュニティの中からコミュニティへ
―新宿二丁目おかのエイズ対策
岩橋恒太さん(NPO法人okan)



◆第2回 6月28日(土)
重度しようがいしやが地域で
あたりまえに生きるために
藤吉さおりさん
藤木晴美さん
(自立ステーションつばさ)



◆第4回 9月27日(土)
感情のアーカイブをつくる
―ミニミニTimeで「自分を書く/読むこと」
家人祐輔さん(書籍編集者)



◆自分で再現・表現していく
そして遙乃さんは、空襲直前まで川田さんと一緒に行動していた直江千鶴さんの文章をもとに、自身で再構成しながら川田さんの最期の日をマンガにしていきます。空襲直前に一緒に食べたお昼ご飯、久し振りにリ



語られました。綾乃さんは川田さん自身が天気が食事、出来事などを欠かさず記していた生活日記を、似たノートに丁寧に書き写しました。また、川田さんが手作りの防空頭巾を、保存されている立命館大学平和ミュージアムまで見に行き、同じような生地を探して手縫いで再現しました。翌日には久しぶりに家に帰るのを楽しみにしていた、自分たちと同じような19歳の自由学園の生徒であった川田さんの急に断ち切られた未来。日々を辿りながら追体験し、自身に近づけることで、もっともっと調べたい、伝えたいという思いが募ってきたこと、これからも探求を続けていきたいことなどが話されました。(記・江頭晃子 運営委員)

アーカイブ多摩日記

◆定款・設立趣意書(案2)

いよいよ6月8日(日)にNPO法人設立総会を開催します。昨年11月に会員の皆様定款・設立趣意書(案1)を同封・ご意見をいただきました。再検討した(案2)を同封しました。ご意見・改定案などお待ちします。

◆運営委員・理事募集中

6月のNPO法人設立総会後、都に申請を行い、年末までには法人格を取得する予定です。25年度の運営委員は、NPO法人設立後は新理事に就任します。この機会に運営委員(理事)を引き受けてくださる正会員を募集します。運営委員会は月1回/対面・オンライン併用です。

◆京都でアーカイブズ講座

昨年11月16日、京都大学人文

科学研究所アーカイブズ講座「市民とつくるアーカイブズとは？」市民と資料をつなぐ取り組み」が開催されました。当会の杉山弘、久保庭朝(尼崎市立歴史博物館あまがさきアーカイブズ)、平野泉(立教大学共生社会研究センター)、谷口佳代子(大阪産業労働資料館・エル・ライブラリ)が登壇。他機関と比べ、小規模な当館の意義を語る言葉を整理する必要性を痛感しました。

◆図書館関係者の来館

12月14日に多摩デポ(共同保存図書館・多摩)が当館の見学会を開催しました。当館案内後、現在作成中の目録について意見交換。図書館員ならではのアドバイスをいただきました。

◆春の樹林開放日

3月9日(日) 10~12時。グリーンサンクチュアリ悠が開催します。音楽演奏やフリマも。

運営委員会など

10月18日 第7回運営委員会、参加者7人(オンライン参加含む)。会員・カンパ者、当番予定、来館者・各部会から報告(以下毎回)。24年度緑蔭トーク反省、25年度計画、定款等アンケート、アーカイブ通信33号、現場を訪ねる他。11月21日 第8回運営委員会、参加者8人。25年度緑蔭トーク・総会・講演会日程・講師等検討、12月8日現場を訪ねる役割分担、3月催し日程確定、アンケート結果中間報告、目録作成他。12月8日「現場」を訪ねる①(横浜・寿町関係資料室・寿町生活館・街歩き、松本一郎さん案内)。参加13人。12月20日 第9回運営委員会、参加者9人。現場を訪ねる反省・感想、HP更新内容確認、3月催し内容、目録作成進捗、助成金獲得に向けて、総会・総会記念講演会講師検討、設立趣意書・定款アンケート結果報告他。1月16日 第10回運営委員会、参加者9人。助成金確保に向けて、3月催し、総会記念講演会、24年度振り返りと25年の活動の柱、運営委員会と理事会について、NPO法人の新理事案他。

会員数(2025年1月)

176(正会員64人
賛助会員106人・6団体)
◆新規入会ありがとうございました
(正会員) 飯島 渉さん
(賛助会員) 大倉宏子さん
曾根衣佐美さん

カンパありがとう

(2024年10月~25年1月)

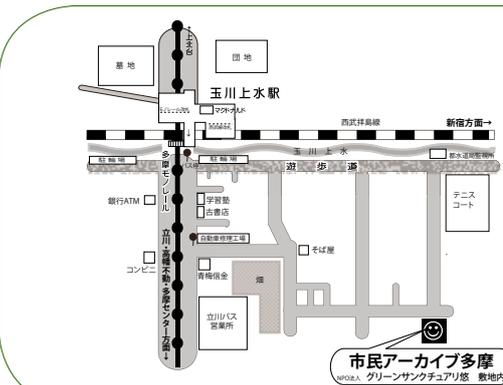
雨谷逸枝さん 石橋正彦さん
岩田京子さん 奥田さが子さん
加藤良夢さん 金沢幾子さん
澤西義博さん 田中ヒロさん
匿名3人

会員の年賀状等から

・大変な仕事ですが、継続に意味があります。がんばってください。
・活動の重要性を感じています。微力ですが、応援していきます！
・新しい方も加わって、活動が少しずつ前に進んでいるのを離れても感じています。何かしら新しいミニコミを発掘してお届けします。
・活動に刺激をもらっています。共に頑張りましょう。
・NPO法人の立上げ協力します。
・今年は砂川闘争70年集会も予定していますので宜しくお願います。今年こそ若い仲間を増やしていきましょう。
・近隣の図書館にもユニバーサルコーナーが出来ました。
・年賀状のニューストップ8、皆さんのご活躍に敬意を表します。
・課題山積ですが今年も宜しく。

編集後記

横浜寿町の簡宿街を巡る。イメージしていた木造の木質宿の姿は今はなく、間口の狭い6、7階建てのアパートがずらりと並ぶ。この半世紀、日本経済の荒波にもまれてきた寿町の歴史を松本さんから学んだ。(増・江・鈴・大・吉)



市民アーカイブ多摩利用案内

- ・開館日：毎週水曜日、第2・4土曜日(年末年始・8月中旬休館有)
- ・開館時間：午後1時~4時 ・入館カンパ：100円~
- ・所在地：〒190-0002 東京都立川市幸町5-9-6-7
(多摩モノレール、西武拝島線「玉川上水駅」南口徒歩10分)
- ・tel・fax：042-536-5535 (電話は開館中のみ)
- ・見られる資料：市民団体や個人が発行するミニコミ(通信や会報等)
- ◆会員・カンパ募集中 ~市民の活動を過去・現在・未来につないでください~
- ・正会員1口6,000円/年 ・賛助会員1口3,000円/年 ※団体会員2口~
- ゆうちょ銀行 振替口座00120-9-729226 口座名：市民アーカイブ
- ※他銀行から ○一九(ゼロイチキュウ)店(019)当座 0729226